

令和元年度  
学校だより  
NO.4



甲府市立大國小学校

# 大國の子

R1. 7. 19 発行 校長：戸澤智紀

＝ 学校教育目標 ＝

「心豊かに、知性を磨き、たくましく主体的  
に行動する子どもの育成」

～めざす子どもの姿～

- 思いやりの心を持ち、助け合う子ども
- よく考え、自ら学び 表現する子ども
- 心身ともに健康で、進んで行動する子ども

## 1学期間ありがとうございました。

1学期末、例年にはない肌寒いような日が続き、子供たちが楽しみにしていた水泳の授業も例年より少なく、そこだけは残念な学期末となりました。

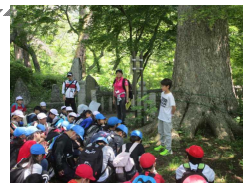
1学期にも、各学年では多くの活動があり、本紙には掲載できなかった行事や校外学習等々、保護者の皆様はもとより地域の皆様からの大きなご理解とご協力をいただきました。おかげをもちまして大きな成果を上げることができました。本当にありがとうございました。

まだまだ課題もあり、実態に即して取り組むべきことも明確になってきました。2学期の大きなステップとなるよう確認し、夏休みを迎えたいと思います。



## 5年生 林間学校

6月13日・14日、5年生の林間学校が「challenge! たくさん学び、思い出に残る林間学校にしよう」のテーマのもと高遠国立自然の家を利用して行われました。梅雨の時期にもかかわらず、天気にも恵まれ、それぞれがそれぞれの役割を果たし、力を合わせてテーマの実現に向けて取り組みました。小学校に入学してから初めての宿泊学習です。



大自然の中での集団生活によって、大自然より、空気や水を与えられ生かされている喜びを感じ、友との活動の中で、友だちから支えられていることを知り友だちを支える喜びをも学ぶ有意義な学習機会となりました。

## 地域の歴史学習



7月10日(水)には、3年生が大國地区の歴史を学びました。子供たちはこの地域の空気を吸っているだけでなく、地域の方々の思い遣いを心の栄養として日々成長しています。

地域の皆様が創り上げてくださった文化の中で子供たちは幸せに過ごしています。そうした地域の心を築き上げてきた背景を学ぶことにより、これまで以上に地域を愛する心が育ったことと思います。子供たちが大人になっても、大國地区に住んで、

そして地域を築いてくださった方々に感謝の心を表し、さらにすばらしい大國地区にしようという心を培ってほしいと思いました。

今年度も文化協会の皆様が綿密な計画立て、さらには安全に配慮した心配りにより、当日は保護者の皆様にも参加をいただく中で、後屋町を中心に、「蚕影山」「道祖神」「勝善寺」「タラヨウの木」「三宝荒神社」を回りました。特に、勝善寺では普段簡単には見られない「木造 夢窓国師 座像」「木造 釈迦如来 座像」等を見ることができました。説明いただいた許山様、萩原様、新井様、渡邊様、後藤様には、とても丁寧に分かりやすく話していただき、ありがとうございました。また、子供たちの行き来の安全について交通



安全協会の皆様に見守っていただきました。

また、この会の開催については、自治連合会の青山会長様をはじめ、企画をしてくださった文化協会の内藤会長様、村松様、今福様、甲府市役所の担当の方々等々多くの皆様のご協力があって進められたことに感謝いたします。



## 大国地区体操部による体操教室

7月1日・2日に、大国地区ラジオ体操部7名の方々から、全校児童がラジオ体操を教えていただきました。大国地区のラジオ体操部は、何年も山梨県大会で最高ポイントを取られているようで、まさにスペシャリストです。

子供たちは自分では手をまっすぐに伸ばしているつもりでも曲がっていたり、真横に手を広げているつもりでもそうでなかったり、と自分のことはわかっているようでわかっていないものです。

ラジオ体操ばかりでなく、自分を矯正してくれる人に指導を受けて、その指導を素直に聞き入れることで美しさが身についてきます。

ラジオ体操以上の体操はない、と言われるほど体操として完璧なものです。今回の成果は、夏休みのラジオ体操や運動会の準備体操で見られることと思います。ご指導くださいました、藤原様、土橋様、若月様、遅沢様、小林様、名取様、片桐様、本当にありがとうございました。



## 運動会など 今後の行事の見直しについて

1学期は10連休もありましたが、授業時数の確保もでき、予定の授業を終了することができました。今年度から特別な水曜日課も生まれ、授業時数確保に取り組んできました。時代の変容と共に子供たちに教える内容も変わり、教える量も増えてくるのは当然です。教える内容の変化と量の増加は、複雑化した世の中で幸せに暮らすためのものでもあり、それだけ子供たちが将来幸せに暮らせる選択肢が増えてきた証でもあります。



時代によって生きる背景は変わりますから、時代に即して国が編成する学習内容は絶対に切り捨ててはいけなものですし、その実施は法で決められたものです。

そこで、考えるべきことは、子供たちに与えられている時間には限度がある、ということです。我々も授業時数の確保と内容に対しての質の充実に努めなくてはなりません。そのような状況の中で学校行事をこれまでと同じように、同じ時間をかけてやっていくことを見直す必要があります。

学校行事はすべて子供たちの成長にとって「善いこと」しかやっておりません。

それは教育現場ですから当然のことです。しかし、「善いこと」だからと言って、子供たちに無理をさせて実施し続けて果たしてよいものか考える必要があります。

栄養があるものを食べ過ぎると栄養過多になるのと同じで、学校行事も消化不良によって逆効果になる場合があります。取捨選択をしていくのも学校の役割です。

これから迎える大きな行事は「運動会」や「児童会のおまつり」、「6年生の陸上運動記録測定会」等々多くの活動が控えています。それらは、古い歴史を持ち教育文化を育んできたものばかりです。しかし、時代とともに見直す必要があります。限られた時間の中で成果のあるものにしていかなくてはなりません。

今後、授業時数確保や温暖化等、自然環境の変化等々踏まえ、特に運動会の内容と練習時間の見直しについては早急に取り組まなくてはならないと考えています。

私も担任時代、運動会を重要視し、燃えに燃えて取り組んできた大切な行事です。来年度以降については保護者の皆様や地域の皆様のご意見もいただきながら、限られた時間の中で時代背景も考慮し、無理なく効果の上がるものにしていく必要があると考えています。



